


師走を迎えて

校長 菊池 幸博

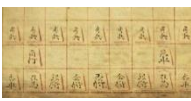
学校は4月からのスタートではありますが、12月に入りますので、年の瀬のあいさつを一言申し上げます。

令和3年は令和2年に引き続き新型コロナウイルスに始まり、翻弄され、様々な制約の中で学校運営を行う年となりました。新型コロナウイルス対策に関しましては、各ご家庭での感染及び感染拡大予防の取り組みを日々重ねていただきましたこと、心より感謝申し上げますとともに、本校の教育活動に深い理解とご協力を賜りましたこと、重ねて感謝申し上げます。

また地域の皆様方におかれましては、コロナ禍ということでなかなか思うようには実施できませんでしたが、登下校の見守りをはじめ、様々な学校ボランティア活動にご参加いただき、誠にありがとうございました。

明るいニュースのあまり多く感じられなかった令和3年ですが、東京オリンピック・パラリンピック2020大会が行われ、多くのアスリートたちが日ごろの鍛錬の成果を
 存分に見せてくれた年でもありました。特に10代や20代前半の若い力の台頭する姿は、子どもたちにも多くの感動を与えてくれたのではないかと思います。海外でも日本人の活躍は目覚ましく、特に大きく報じられたのはメジャーリーグの大谷翔平選手でした。打者と投手の二刀流を極め、米大リーグで年間最優秀選手に選ばれるという快挙を成し遂げました。

また、将棋界では藤井聡太さんが四タイトルを19歳という年齢で獲得するという大活躍をし、こちらも若い力の可能性をしっかりと示してくれたことで、数年後あるいは10年後の自分づくりに向け、子どもたちにとっては、大きなモデルケースとして受け入れられたのではないのでしょうか。

 こうした様々な人たちの活躍する姿は、未来を背負う子どもたちにとって「憧れ」であり「希望」につながっていく姿です。明日の自分、数年後の自分、将来の自分の姿をそこに重ね、今すべきことは何かを考えるきっかけとなるのではないのでしょうか。それは本校で行っているたて割り活動にも同じことがいえると考えています。

令和4年は壬寅(みずのえとら)年になります。壬寅は厳しい時を乗り越え、まるで春の芽吹きのように、生命力が溢れ、華々しく生(せい)が結実する年といわれているとのこと。年頭には子どもたちは今年の目標をそれぞれ思うのではないのでしょうか。どうか子どもたちにとって、様々な思いが実を結んでいく年となるよう願っております。

よい年をお迎えください